

シリーズ 土地改良のあしあと 菰野町土地改良区(菰野町)



朝上北部工区 竣工記念碑

本土地改良区は、平成18年に新設合併をした比較的歴史の浅い土地改良区であります。

昭和40年代後半から豊かな農業を目指し、近代農業への転換を図るべく先人たちが英知を傾注し圃場整備事業を町内各地で展開しました。

その数、大小合わせて16の土地改良区が点在していましたが、工事後の経費節減のため行政機関の温かいご支援により合同事務所を開設、菰野町土地改良区運営協議会と称し数名の職員が各土地改良区の事務委託を受けて運営していました。

しかしながら、低迷する農業情勢、土地改良に取り組んだ先人たちから次世代への交代等により土地改良区が脆弱化しつつあるなか、土地改良区の基盤強化を図るため土地改良区の統廃合を考えたらどうかと行政機関の指導により、平成15年から18年まで各土地改良区、県、町及び各機関等何度となく協議を重ね平成18年8月1日新設合併(受益面積1,014ha、組合員数2,145名)の運びとなり今日に至っております。

事業後40年が経過している古い施設では、服部理事長の指揮の下、オープン水路の不陸、揚水機的能力低下、調圧



ちくさ用水取水工



菰野県圃鶏川原工区 池底地区 調圧水槽

水槽、パイプラインの漏水が見られ適正化事業、県・町単事業等で随時更新、補修を実施しています。現在、基幹水利システムストックマネジメント事業でパイプラインを修繕しております。

当改良区域内を新名神高速道路、それに附随して国道477号線新規格道路が建設中であり完成後には、ゆったりとした農村風景が大きく様変わりする様相を呈しています。

又、多面的機能支払交付金事業(470ha)の事務委託を土地改良区が受託しており、施設の軽微な補修等を行い、施設の維持管理や農村集落の環境保全向上を図っています。

毎月1回土地改良区事務所に集まり各月の活動報告、活動計画、集落内の難問を提示し全員で協議するなど情報交換の場となっています。

地域においては、老人たちが集まって野菜を栽培して地元のホテルへ出荷、宿泊客による野菜の収穫体験を行い、地産地消活動を行うなどして農村の活性化を図っています。



地元小学校5年生による農業体験学習



新名神高速道路が計画されている菰野県圃工区 全景